

平成31年度

学校いじめ防止基本方針

京都市立柊野小学校

平成 31 年度 京都市立柊野小学校「学校いじめ防止基本方針」

1 総則

(1) 目的

「いじめ」は子どもたちの心身の健全な成長に重大な影響を及ぼし、自殺や不登校を引き起こす深刻な人権問題である。そのような中で「いじめ」はどの学校、学級でも起こりうるものであり、また、全ての子どもが、突然被害者にも加害者にもなり得るものであると捉える。

教職員は、一人一人の児童生徒と向き合い、課題や問題に対し、その背景を的確に理解し、適切な指導と支援に努める。こうした基本姿勢のもと、いじめの兆候をいち早く把握し、迅速かつ組織的な対応の徹底を図る。学校の中では「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を徹底し、「いじめ」を許さない学校づくりを推進する。

この度、平成 29 年 3 月に改定された国の「いじめの防止等のための基本的な方針」の内容や本市の現状を踏まえ、「いじめの積極的な認知」「未然防止・早期発見と組織的な対応の徹底と検証」などの取組の一層の充実を目指し、取組指針の改定を行った。子どもの成長に関わる全ての人々との協働のもと、子どもが安心して生活し、学ぶことができる環境を構築するための施策、取組を一層推進する。

(2) 基本理念

いじめの防止等の取組の推進に当たっては、子どもの育成に携わる全ての者が次に掲げる 3 点を基本理念として、相互に連携した取組を継続的に行う。

- ・ 全ての子どもが「正義感や公正さを重んずる心」「生命を大切にし、人権を尊重する心」「他人を思いやる心や社会貢献の精神」「道徳的価値を大切にする心」等に加え社会の一員としての確かな規範意識を身に付けるとともに、他者へのいじめを行わないことはもとより、子ども自身がいじめの防止等の取組の当事者として、その解決に向けた主体的、積極的な取組を行うことができるように育まれること。
- ・ いじめの問題の解決に当たっては、いじめを受けた子どもの心に寄り添った対応を、いじめを行った子どもに対しては、単に表面的な言動のみをとらえるのではなく、そのいじめを行うこととなった背景も踏まえた対応を、迅速かつ的確に行い、再びいじめを行うことのないように対処すること。
- ・ いじめを受けた子どもの保護者はもとより、いじめを行った子どもの言動に困りを感じている保護者についても、相談体制の整備をはじめ、必要な支援がわれること。

2 いじめ対策委員会

ア 構成員（職名又は校務分掌）

校長 教頭 教務主任 生徒指導主任 養護教諭 教育相談主任
学年主任 スクールカウンセラー ソーシャルスキルワーカー

イ 開催時期

- ・ 定例委員会は、毎月第 1 火曜日。（緊急対応の場合は、この限りではない。）

ウ 役割

- ・ 児童や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発、意見聴取
- ・ 個別面談や相談窓口の集約
- ・ いじめやいじめが疑われる行為を発見した場合の集約窓口

エ 取組内容

- ・ 「学校いじめ防止基本方針」の作成，見直し，確認（PDCAサイクル）
- ・ 未然防止の取組・早期発見に向けての対策等の検討・推進
- ・ 学校基本方針に基づく取組の実施と進捗状況の確認
- ・ 校内体制や組織的対応の情報共有
- ・ 各学年の児童生徒の情報交換と課題の共有
- ・ 児童アンケート，教育相談の実施と結果の共有
- ・ 学校評価の実施，結果の共有
- ・ 発見されたいじめ事案，重大事案への対応
- ・ 関係機関・専門機関との連携対応
- ・ 「いじめの対応に特化した研修」の実施
- ・ いじめ防止基本方針の学校HPへの掲載

オ 児童・保護者への周知方法

- ・ 始業式，朝会，集会等の校長講話
- ・ いじめ防止基本方針の学校HPへの掲載
- ・ 学校だよりでの人権に関するコラム掲載
- ・ 学級懇談会や個人懇談会での児童の状況についての連絡・相談
- ・ 道徳の公開授業や人権参観等での取組の発信

※ 取組の実施時期，いじめ対策委員会の開催時期については，
後述の「年間計画」に記載

3 学校いじめ防止プログラム

（１） 学校におけるいじめの防止のための取組

ア 授業改善の充実

- ・ 全ての児童がわかる喜びと学ぶ楽しさを実感できる授業の実施
- ・ 学習の約束やルールを一人一人の子どもが確実に身に付け，意欲的に学ぶ集団づくりの取組の推進
- ・ 学級経営の充実を図り，すべての児童が安心して学習に臨むことができる集団づくり
- ・ 教育課程指導計画（京都市スタンダード）に基づく指導の徹底。
- ・ 言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成を重点においた学習内容や学習形態の工夫
- ・ 生活規律の定着を図り，自己有用感を培う

イ 道徳教育，人権教育の充実

- ・ やわらかいけれど芯のしっかりした「しなやかな道徳教育」の実践
- ・ よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てることをねらいとした活動の，意図的，計画的な実施
- ・ 全学年一斉に取り組む「にこにこデー（各月10日）」の設定
- ・ 「いじめは絶対に許されない」ことや，「命の大切さ」「思いやりと友情」などを具体的に取り上げた人権学習，道徳の学習の実施
- ・ 地域ボランティア，ゲストティーチャーを活用した人権学習の実施
- ・ 道徳の授業の充実や教員の授業力向上をめざした授業研修会の実施
- ・ 警察のスクールサポーターによる非行防止教室の実施

ウ 体験活動の充実

- ・宿泊体験学習・遠足などの取組を通しての仲間づくり
- ・学校行事（運動会・学習発表会など）を通しての人間関係づくり
- ・総合的な学習の時間、生活科等を通しての自他の生命を尊重する活動の推進

エ 児童生徒が主体的に行う活動の充実

- ・児童会による取組「スマイルウィーク」や12月の人権月間の取組の充実
- ・異学年集団（たてわりグループ）の交流を通しての望ましい人間関係の育成と、協力して諸問題を解決する力の育成（遊び交流・給食交流など）
- ・いじめ防止に向けた標語、スローガン、ポスターの作成と掲示

オ 児童生徒同士の絆づくり

- ・朝会の講話に基づく話し合い活動
- ・学級活動を通してのより良い関係づくり
- ・たてわり活動を通しての絆づくり
- ・部活動や地域やPTAの行事による絆づくり

カ 保護者の啓発

- ・「いじめ防止対策推進法」「京都市いじめの防止等に関する条例」の趣旨や「柊野小学校いじめ防止基本方針」の内容を周知
- ・いじめの防止や解消に、保護者による子どもの観察や声かけの重要性と理解・協力の必要性の周知。
- ・道徳や人権学習の参観授業への呼びかけを進める。
- ・中学校ブロックを巻き込んだ地域生徒連絡協議会、地域家庭教育学級においての、保護者や地域での声かけ、観察をより一層充実する必要があることを周知
- ・授業参観日において非行防止教室を実施し、保護者にも考える題材とし、共に考えていく関係の構築。

キ その他

- ・学校評価アンケートを定期的な実施、結果分析
- ・年度末から年度初めには成果と課題の周知、校内でPDCAサイクルでの基本方針や取組の改善を図る。

（２） いじめの早期発見・積極的認知のための措置

ア 日常の児童に関する情報の集約と共有

- ・登校、休み時間、掃除中などの校内巡視による児童の見守り活動の実施
- ・全教職員によるいじめを見逃さない体制づくりの構築
- ・生徒指導主任による日常の児童に関する情報の集約と生徒指導委員会のメンバーを通じての全教職員への周知
- ・「重大事態」および「重大事態へとつながることが危惧される事態」の際の緊急対応と情報共有、関係機関との連携

イ 児童生徒に対する定期的な調査

① アンケートの実施など

- ・学校評価アンケート，いじめに特化したアンケートを利用した「いじめ」の兆候の早期実態把握
- ・クラスマネジメントシートを活用した「いじめ」の実態把握と学級経営の見直し

② 教育相談など

- ・アンケートに基づく積極的な相談活動の実施
- ・児童に対するアンケートの実施による発見の強化
- ・お話月間の設定（担任と1対1で）
- ・SCとの連携による教育相談，SSWとの連携

ウ 上記調査等の結果の検証及び組織的な対処

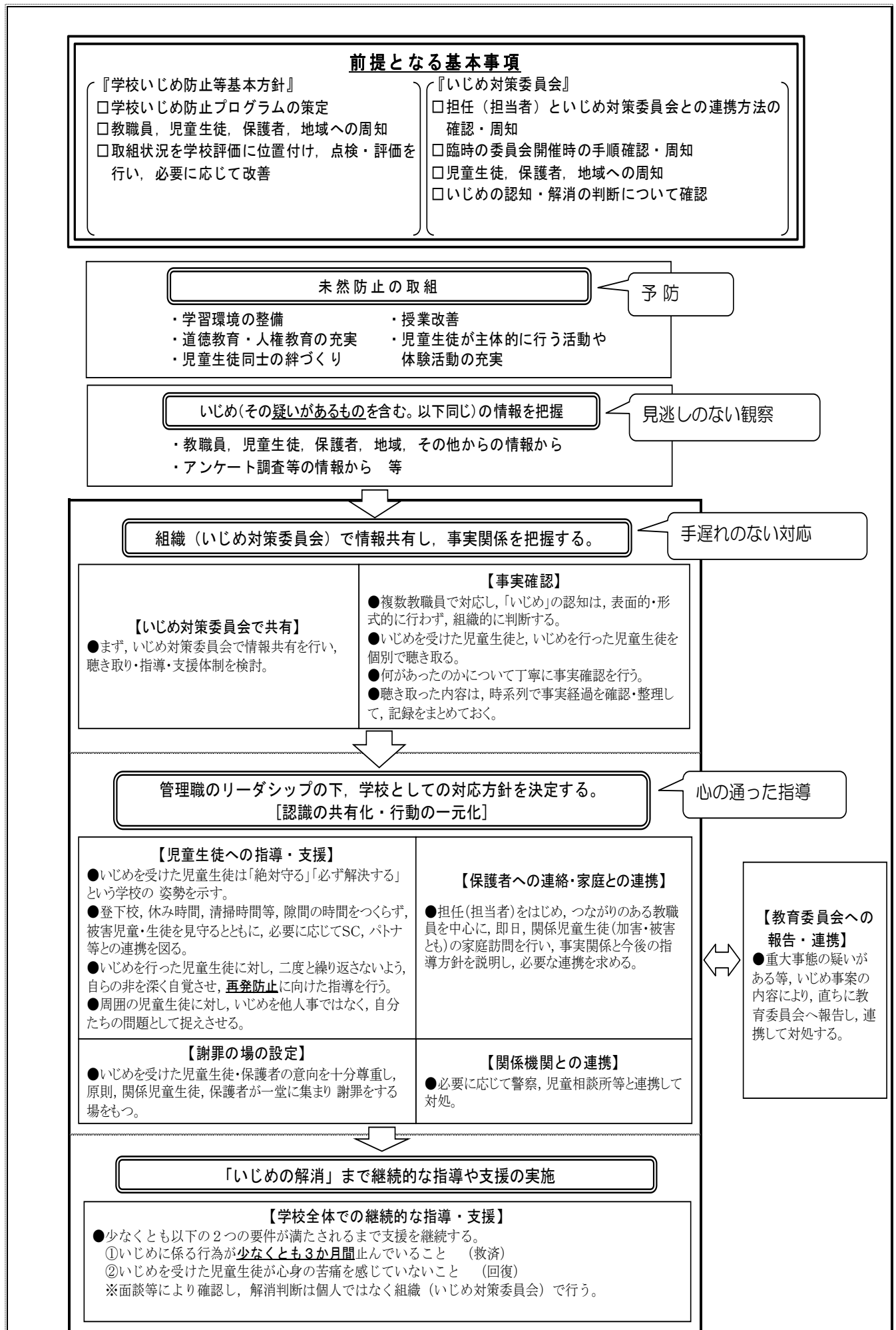
- ・アンケート，教育相談の結果の集約と情報共有
- ・アンケートの検証によるいじめの早期発見と積極的認知
- ・アンケート内容のPDCAサイクルでの見直し
- ・定期的な家庭訪問の実施による相談機会の確保
- ・定期的な「いじめ対策委員会」による情報共有と組織的な動きの構築

(3) いじめが起こったときの措置及び再発防止に向けた取組

(基本的な考え方)

- ・速やかな対応，丁寧な聞き取り，正確な事実関係の記録（組織的な対応）
（被害の態様，状況，構造，動機，背景など）
- ・重大事態の防止
- ・被害児童の保護を最優先に考えた対応
- ・加害児童への責任ある指導
- ・保護者との連携
- ・学級，学年等の集団全体を見据えた指導

◆ いじめやその疑いを把握したときの措置及び再発防止に向けた対応



① インターネットを通じて行われるいじめに対する対策の推進

- ・情報モラルの学級活動の強化
- ・SNSを通じて起こっている問題行動の理解
- ・SNSを使つての「いじめ」対応の事例研修
- ・家庭教育学級，地生連等を活用しての地域への啓発
- ・関係機関との連携

② 「いじめの解消」の定義を踏まえた見守り及び再発防止に向けた取組

いじめが「解消している」状態とは，少なくとも次の2つの要件が満たされている必要がある。ただし，これらの要件が満たされている場合であっても，必要に応じ，他の事情も勘案して解消しているかどうかを判断するものとする。

- ① いじめに係る行為が少なくとも三ヶ月間止んでいること
- ② いじめを受けた児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと

いじめが「解消している」状態とは，あくまで，一つの段階に過ぎず，解消している」状態に至った場合でも，いじめが再発する可能性が十分にあり得ることを踏まえ，いじめを受けた児童生徒及びいじめを行った児童生徒について，日常的に注意深く観察する。

(4) 教職員の資質向上の取組

- ・生徒指導体制の見直しと「報告」「連絡」「相談」の徹底
- ・教員研修による教師一人一人のいじめに対する意識の向上（4・6・11・2月）
- ・いじめ事案ごとのケース会議の開催（随時）
- ・教職員の人権感覚を磨く取組と能力向上を図る研修会の実施（8月）

4 保護者・地域・関係機関との連携

- ・人権学習，道徳の学習の参観授業による保護者への啓発活動
- ・非行防止教室の保護者参観
- ・西賀茂中学校ブロックの家庭教育学級や地域生徒指導連絡協議会での「いじめ防止基本方針」の理解を深めるための研修会の開催
- ・西賀茂中学校ブロックでの人権標語の取組とポスターの学校・地域での掲載
- ・SC・SSWとの連携を密にするため，校内コーディネーター（養護教諭）を設置
- ・校内いじめ対策委員会での検討のもと，関係機関と連携

5 重大事態への対処

- ・京都市教育委員会への報告と相談、調査主体等の協議
 - ①生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあるとき
 - ②相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあるとき

学校が調査主体の場合

- ・学校の下に重大事態の調査組織を設置
- ・調査組織で、事実関係を明確にするための調査を実施
- ・いじめを受けた児童及びその保護者に対して必要に応じた適切な情報提供
- ・京都市教育委員会への調査結果の報告
- ・調査結果を踏まえた必要な措置
- ・同種の事態発生防止に必要な取組の推進

京都市教育委員会が調査主体の場合

- ・京都市教育委員会の指示のもと、資料の提出など、調査への協力

6 年間計画（予定）

いじめの防止等のための取組を下表のスケジュールにより実施する。ただし、年度途中に計画の見直しを行う場合がある。

月	対策会議（いじめ対策委員会等）の開催や教職員の資質能力向上（校内研修）の取組	未然防止の取組	早期発見・積極的認知の取組	保護者等への啓発関係機関との連携
4	<ul style="list-style-type: none"> ・人権研修会 「学校いじめの防止等基本方針の共有」 「年間計画と役割の明確化」 「いじめ防止プログラム PDCAサイクルの確認と共有」 ・生徒指導委員会① 「校内体制や組織的対応の共有」 「児童・保護者への広報について」 	<ul style="list-style-type: none"> 【共通】 ・入学式 ・学級開き 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の児童の様子を、いじめアンケートや『引継ノート』等で確認し、情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式 ・授業参観 ・学級懇談会の中で保護者啓発
5	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会② 「記名式アンケートの実施に向けて」 「いじめ等、気にかける児童の確認」 ・生徒指導校内研修会① 「いじめ等、気にかける児童の共有」 ・人権授業研修会に向けての指導案検討会・勉強会（若葉の会の取組） ・小中連絡会 	<ul style="list-style-type: none"> 【共通】 ・憲法月間の講話（人権について） ・あいさつ運動（児童会）開始 ・「なかよしグループ」決定 ・1年生を迎える会 ・町別児童会 		<ul style="list-style-type: none"> ・憲法月間「学校だより」 ・家庭訪問週間 ・学校運営協議会理事会 ・PTA期首総会
6	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会③ 「記名式アンケートの結果の共有」 「クラスマネジメントシートの実施に向けて」 ・人権研修会（授業研修） 	<ul style="list-style-type: none"> 【共通】 ・「あいさつ運動」 ・「なかよしタイム」顔合わせ ・「なかよしタイム」給食・遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回記名式アンケートの実施、学年集約と共有① ・お話月間（第1回いじめアンケート実施後の教育相談週間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会企画推進委員会 ・西賀茂地域生徒指導連絡協議会 ・休日参観（総合育成支援教育）
7	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会④ 「クラスマネジメントシートの結果」 「教育相談の結果の共有」 「いじめ防止プログラムの見直しと確認①「PDCAサイクル」 	<ul style="list-style-type: none"> 【共通】 ・「あいさつ運動」 ・「なかよしあそびタイム」 ・夏季休業前の集会で「なかまづくり」について再度話をする。 ・町別児童会 ・健康安全教育授業 		<ul style="list-style-type: none"> ・個人懇談会 ・西賀茂地域生徒指導連絡協議会夏のパトロール
8	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会⑤ 「夏季研修（いじめ問題）に向けて」 「いじめ防止プログラムの見直しと確認 	<ul style="list-style-type: none"> 【共通】 ・「あいさつ運動」 		<ul style="list-style-type: none"> 夏のパトロール

	①「PDCAサイクル」 ・生徒指導校内夏季研修会② 「4月～7月いじめ事案の経過」 「いじめ防止プログラムの見直しの共有」 ①「PDCAサイクル」 ・小中合同教職員研修（情報共有）			
9	・生徒指導委員会⑥ 「未然防止に向けた取組の確認」 「学校評価の実施に向けて」①	【共通】 ・「あいさつ運動」 ・「なかよしタイム」給食・遊び ・生活調べ 【5年】ケータイ教室 【5年】花背山の家長期宿泊学習		家庭地域教育学級 （地域生徒指導連絡協議会）
10	・生徒指導委員会⑦ 「記名式アンケートの実施に向けて」 ・生徒指導研修会 「学校評価アンケートの結果の共有」①	【共通】 ・「あいさつ運動」 ・「なかよしタイム」 ・運動会 【1・2・3年】遠足 【5年】稲刈り 【ひいらぎ学級】育成合同運動会	・学校評価児童アンケートの実施 ①（全学年）	・学校運営協議会で説明と評価②
11	・生徒指導委員会⑧ 「記名式アンケートの結果の共有」 「校内研修会（授業提案）に向けて」 ・生徒指導校内研修会③ 「授業を伴う研修会の実施」	【共通】 ・「あいさつ運動」 ・「なかよしタイム」 ・学習発表会 【6年】西賀茂中学校部活動体験 【6年】薬物乱用防止教室	・第2回いじめアンケート実施 ・いじめアンケート学年集約と共有②	・就学時健診
12	・生徒指導委員会⑨ 「基本方針の見直しと作業に向けて」 「いじめ防止プログラムの見直しと確認」 ②「PDCAサイクル」 ・生徒指導校内研修会④ 「いじめ防止プログラムの見直しの共有」 ②「PDCAサイクル」	【共通】 ・「あいさつ運動」 ・人権集会 ・人権月間のポスターづくり 【ひいらぎ学級】合同作品作り 【5年】しめ縄づくり		・人権月間「学校だより」で啓発 ・PTA人権街頭啓発 ・個人懇談会（希望制）
1	・生徒指導委員会⑩ 「9月～12月いじめ事案の経過」	【共通】 ・「あいさつ運動」 【5年】餅つき		・人権学習参観 ・学級懇談会で保護者啓発
2	・生徒指導委員会⑪ 「学校評価の実施に向けて」② ・生徒指導校内研修会⑤（年間反省） 「今年度の反省と次年度への課題」 「いじめ事案の経過と課題の共有」	【共通】 ・「あいさつ運動」 ・「なかよしタイム」給食・遊び ・「なかよしタイム」メッセージカード作り ・図工展 ・町別児童会 ・健康安全教育授業 【4年】エコライフチャレンジ 【5年】非行防止教室 【6年】中学校ブロック交流会	・学校評価児童アンケートの実施 ②（全学年）	・新1年入学説明会で校長から講話 ・授業参観 ・懇談

		(生徒会)		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会⑫ 「いじめ防止プログラムの見直しと確認 ③ 「PDCAサイクル」 ・生徒指導研修会 「いじめ防止プログラムの見直しの共有 ③ 「PDCAサイクル」 「学校評価の結果の共有」② 「次年度の基本方針の確認」 ・小中連絡会 	<div>【共通】</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」 ・6年生を送る会 ・卒業式 <div>【6年】卒業遠足</div> <div>【ひいらぎ学級】合同お別れ会</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向け、アンケート等の結果の学年集約（全学年） ・アンケート原本の保管（5年保存） 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末学級懇談会 ・学校運営協議会で説明と評価③

※ 年間計画では以下の事項の回数・実施時期などを策定する。

- ・ 「学校いじめ防止プログラムの見直し」（PDCAサイクル 8月・12月・3月）
- ・ 「学校評価の実施」と「学校評価の結果の共有」
- ・ 「いじめに関する記名式アンケート」「教育相談」
- ・ 「いじめの防止等の対策のための組織の会議（定例 いじめ対策委員会）」「生徒指導校内研修」
- ・ 「授業参観」「学級懇談会」「学校運営協議会」

※ 「いじめの未然防止の取組」として、学習環境の整備や授業改善はもとより、道徳教育、人権教育の充実、児童生徒が主体的に行う活動や体験活動の充実、児童生徒同士の絆づくりを、すべての教育活動を通じて行う。

※ 「いじめ対策委員会」については、いじめ事案の発覚時に、速やかに臨時で開催する。

事案の経過や解消の確認については、定例の「いじめ対策委員会」で随時行い情報等を共有する。